

オーラルセッション — フルペーパー

# 観光における文化資源の構築と蓄積に関する研究

— 石川県, 「金沢 浅の川園遊会館」が支援する  
芸妓のケース・スタディ・リサーチ —

北陸学院大学 社会学部 社会学科 准教授

平岩 英治

北陸学院大学 社会学部 社会学科 助教

葦名 理恵

## 要約

石川県の「金沢 浅の川園遊会館」が支援する芸妓のケース・スタディ・リサーチを行い、石川県、金沢の芸妓の観光における文化資源の構築と蓄積について、その要素やメカニズムを明らかにしている。その要素は、組織文化の3つのレベルである、人工の産物、信奉された信条と価値観、基本的な深いところに保たれている前提認識の3つのレベルに分けている。人工の産物には、芸妓の芸、接客がある。信奉された信条と価値観には、観光における文化資源の構築と蓄積、接客力がある。基本的な深いところに保たれている前提認識には、日本の伝統芸能の継続、地域への貢献意欲がある。さらに、そのメカニズムを芸妓の観光における文化資源の3つのレベルの表と、その3つのレベルの氷山モデルの図によって示している。

## キーワード

観光, 文化, 資源, 伝統芸能, 芸妓

## I. はじめに

芸妓（げいこ）とは、踊りや三味線などの日本の伝統芸能で宴席に興を添え、顧客をもてなすサービス提供者である。芸妓は、その読み方が「げいぎ」と言われることもあり、また、場所によっては、「芸子」、「芸者」と呼ばれることもある。

芸妓は、京都や東京を始め、日本の複数の地域に存在しており、石川県の金沢においても、ひがし・にし・主計町の茶屋街に芸妓が存在している。金沢では、このような日本の伝統芸能のサービスを提供する芸妓が、海外の人々、特に欧州や米国を始めとする西洋文化圏の人々から関心を持たれており、観光における文化資源の1つとなってきた。

本研究では、石川県の伝統文化の1つである金沢の芸妓について、最近、人気が高まってきている、石川県の「金沢 浅の川園遊会館」が支援する芸妓のケース・スタディ・リサーチから、観光における文化資源の構築と蓄積の要素やメカニズムについて考察する。

## II. 先行研究

観光資源化に関する研究では、アウトドア・アクティビティ

の観光資源化（権, 2024）、特異な自然現象の観光資源化（佐藤・館山・今泉, 2024）、鉄道遺産の観光資源化（安本, 2024）などの研究がある。

観光資源を生かしたり、観光資源に着目したりするなどの研究では、地方都市における地域資源を生かした多様なツーリズム（遠藤・中里, 2024）、聴覚的観光資源に着目した観光プロモーション（頭師, 2024）などの研究がある。

その他の観光における資源に関する研究では、地域観光資源への興味啓発（佐々木・石塚・関, 2024）に関する研究や、持続可能な観光資源の保護（曾我, 2024）に関する研究などがある。

しかしながら、観光における資源に関する研究は非常に少なく、マーケティングや経営に関連する文化資源の研究は見当たらなかった。さらに、日本での観光における文化資源の構築と蓄積の要素やメカニズムなどに関してまで言及している研究は見当たらなかった。

## III. 研究方法

本研究では、ケース・スタディ・リサーチにより、観光における文化資源の構築と蓄積の要素やメカニズムについて考察する。対象は、最近、人気が高まってきている、石川県の

「金沢 浅の川園遊会館」を中心に、金沢のひがし・にし・主計町の茶屋街の芸妓とする。

具体的には、「金沢 浅の川園遊会館」へのインタビュー調査を中心に、ウェブサイトや資料、文献なども確認し、情報の整合性や正確性に配慮する。

#### IV. ケースの対象の概要

ケースの対象である、「金沢 浅の川園遊会館」の概要は、以下のとおりである。

- ・ 企業名 : 有限会社キコウ商会
- ・ 施設名 : 金沢 浅の川園遊会館
- ・ 施設所在地 : 石川県金沢市観音町1-1-4
- ・ 開業年月 : 2022年5月

「金沢 浅の川園遊会館」は、地元有志たちの浅野川界隈の風土・歴史・文化を生かすまちづくり活動、さらにその活動が進展し、「金沢 浅の川園遊会」が開催されるようになることに起源がある。その流れは、以下のとおりである。

1985年に、地元有志代表の佃一成、蚊谷八郎、中村驍、米澤修一が発起人となり、浅野川界隈の風土・歴史・文化を生かすまちづくり活動を始めるようになる。1986年には、尾張町、橋場町側の人たちによるまちづくり団体である「老舗・文学・ロマンの町を考える会」が発足する。さらに、この年には、佃一成、蚊谷八郎が中心となり、界隈フォーラムで浅野川を舞台にした園遊会が提言される。その後、「ロマンの会」の発足を契機に、中村驍、米澤修一を始めとする東山側の人たちが中心となり、「金沢東山まちづくり協議会」が発足する。そして、浅野川を挟んだ「ロマンの会」と「東山まちづくり協議会」が合体して、「金沢浅野川園遊会実行委員会」というお祭りを実施する実働部隊ができる。これ以降、佃一成、蚊谷八郎、中村驍、米澤修一の4人が中心となって「浅の川園遊会」の運営が行われるようになる。この当時、芸妓は高齢化していたが、その後、園遊会を見たことがきっかけで芸妓に憧れ、芸妓になりたいという若い女性がでてくるようになる。

1989年に、第1回の水芸である、平成「滝の白糸」が上演される。1991年には、「第5回記念事業」として、「滝の白糸」の像が設置される。1993年には、イベントとして、「鏡花の夕べ」が開始される。1995年には、阪神淡路大震災に対する義援金として、10万8835円を拠出する。1996年には、「浅の川演舞場」建設について、提案、発表する。1997年には、「浅の川演舞場」建設のため、基金箱

200個を界隈に設置する。1998年に、中部観光文化賞を受賞する。1999年、高円宮ご夫妻のご案内でルクセンブルクのジャン大公殿下ご夫妻が来場される。2000年には、NHKのBSの全国放送で、「浅の川園遊会」について、2時間生放送される。また、この年には、「浅の川園遊会」が金沢市文化活動賞を受賞する。2001年には、県や市のPRのためのブースを設置する。さらに、「浅の川演舞場」の模型を制作する。2002年、宇多須神社の節分祭を、その年の園遊会の始まりの神事として共同で開催する。さらに、メインタイトルとして、「私たちは香り高い文化と美しい環境を大切にします」を作成する。また、安全強化のため、「安全対策特別隊」を編成する。この年には、さらに、澁谷学術文化スポーツ振興財団から表彰される。2003年には、サブタイトルとして、「町、人、味、芸・こだわりの金沢」を作成する。また、総務省の「全国ふるさとイベント大賞」の部門賞を受賞する。2004年には、安全対策の強化と環境保全の改善（清掃とゴミ対策）を行う。さらに、棧敷席の有料貸出を実施する。また、ひがし茶屋街において、第1回の「八尾おわら流し」を開催する。2005年には、将来の「浅の川演舞場」を意識した浮き舞台に、全面模様替えを行う。さらに、サントリー文化財団「地域文化賞」を受賞する。2006年には、「第20回記念事業」として、「20回を祝う会」をホテル日航金沢で開催する。石川県の観光100選に選ばれる。2007年には、「新生 浅の川園遊会」と銘打ち、川の中の浮き舞台を東山河岸緑地内に移築する。さらに、平成「滝の白糸」を水谷八重子が演じる。また、この年に、主計町河岸で第1回「白糸川床」を16日間開催する。2008年には、「白糸川床」の一部を本舞台後方に設置し特別棧敷とする。さらに、「浅の川園遊会」の字体と呼称を商標登録する。2009年には、事業を大幅に見直し、4月にひがし茶屋街において、「八尾おわら流し」、「平成はしご登り」を、7月に「浅の川園遊会・夏の夕べ」、7月から8月にかけて第3回となる「白糸川床」を開催する。2010年には、4月に「浅の川園遊会」において、「桜花の宴」、「八尾おわら流し」を開催する。2011年には、東日本大震災に対する義援金を集めるための箱を、30箱、東山界隈に設置する。2012年には、4月開催であった「鏡花の夕べ」を、秋の催しとして11月に開催することとする。2013年に、「浅の川園遊会」の事務局を、橋場町から尾張町に移転する。2014年には、緑化事業の一環として、金沢市に30万円を寄付する。2015年には、歴史建造物保存費用として、金沢市に20万円を寄付する。さらに、鏡花通り町並み整備費用として、地域に10

万円を寄付する。2016年には、「八尾おわら流し」のプレイイベントとして、「ひがし芸妓連」の「ふるまい酒」や「はしごのぼり」を開催する。

2019年に、主計町町名復活20周年祭に協賛する。2020年には、コロナ禍の中、さまざまな催しが中止となる。2021年には、コロナ禍2年目における緊急事態宣言の発令により、「白糸川床」が開催直前に中止となり、その他、さまざまな催しも中止となる。

2022年には、5月に「金沢 浅の川園遊会館」を開館する。この会館は、茶屋文化、金沢の芸妓、「金沢 浅の川園遊会」とまちづくり活動について紹介する施設である。ひがし茶屋街入口にできた新たな情報発信拠点として、パネルや実物展示、ジオラマ、映像などを通じて紹介している。また、金沢の芸妓の紹介や「Meet the Geiko」,「Meet the Geisha」などを始めとするイベントの開催、開催するイベントのPRなどを通じて芸妓を支援するサービスなども行っている。さらに、ミニうちわ作り体験、畳コースター作り体験、和傘かがり体験なども行っている。

## V. 考察

石川県の伝統文化の1つである金沢の芸妓について、最近、人気が高まってきている、石川県の「金沢 浅の川園遊会館」が支援する芸妓のサービスとは、どのようなものなのか。ここでは、そのサービスの要素やメカニズムについて、観光における文化資源としての点から分析を行う。

### 1. 石川県、金沢の伝統文化の存在

石川県では、他の地域から伝わったものも含め、この地域で独自の発展を遂げたものが多く存在しており、そのため、石川県内には多く伝統文化が存在している。知名度の高いものでは、輪島塗、七尾仏壇、九谷焼、山中漆器など、国指定10種、県指定6種、希少20種の計36種の伝統工芸がある。

金沢の伝統文化では、加賀友禅、金箔箔、九谷焼、大樋焼、金沢漆器、加賀蒔絵、加賀繡、加賀毛針、加賀象嵌、金沢仏壇などの工芸品などの文化や、加賀宝生、狂言、金沢素囃子、加賀万歳、加賀とびはしご登り、茶道などの芸能、技能などの文化がある。

### 2. 伝統文化の支援者である旦那衆の存在

石川県、金沢にも多くの伝統文化が存在していることは既述のとおりであるが、金沢では、旦那衆と呼ばれる人たちが

が、浅野川界隈の風土・歴史・文化を生かすまちづくり活動を始めるようになるなど、金沢の伝統文化についても、支援などの活動を行うようになる。そして、それらの活動は、後の「金沢 浅の川園遊会館」の行う、茶屋文化や金沢の芸妓の紹介などの活動に引き継がれていくこととなる。

### 3. 観光地である金沢の文化資源の観光における活用と芸妓の存在

石川県には、世界農業遺産にも選ばれた輪島の「白米千枚田」、羽咋の「千里浜なぎさドライブウェイ」、小松の「日本自動車博物館」などの観光スポットがある。さらに、金沢には、日本三名園の1つと言われている「兼六園」を始めとして、「金沢21世紀美術館」、「金沢城公園」、「ひがし茶屋街」、「長町武家屋敷跡界隈」、「近江町市場」などの観光スポットがある。このように石川県、特に金沢は有名な観光地となっている。

これは、既述のとおり、他の地域から伝わったものも含め、この地域で独自の発展を遂げたものが多く存在していることによって、多くの観光スポットをつくりあげ、それらの観光スポットが集まることによって、観光地としての知名度が向上しているのではないかと考えられる。芸妓も、観光で活用されている文化資源の1つであると考えられる。

### 4. 観光における文化資源としての芸妓の資源の構築と蓄積のための支援

既述のとおり、金沢では、旦那衆と呼ばれる人たちが、浅野川界隈の風土・歴史・文化を生かすまちづくり活動を始めるようになり、後に「金沢 浅の川園遊会館」を開館し、本格的に浅野川界隈の風土・歴史・文化を生かすまちづくり活動を行うようになる。そして、それらの文化の中でも、観光における文化資源としての芸妓の資源に着目し、その資源の構築と蓄積のための支援に注力するようになる。

この芸妓という観光における文化資源に対し、その紹介や「Meet the Geiko」,「Meet the Geisha」などを始めとするイベントの開催、開催するイベントのPRなど、金沢の芸妓を支援するようになる。これらの支援を通じて、金沢の芸妓という観光における文化資源の構築と蓄積が行われるようになる。

### 5. 観光における文化資源である芸妓の要素やメカニズムについて

観光における文化資源である芸妓について分析するに

は、Scheinの組織文化の3つのレベルが有用であると考えられる。Scheinは、自分たちが参加する集団についてある人が有する一連の前提（assumption）であると文化を定義している。さらに、この文化は、以下のような3つのレベルに分類されている。

1つ目は、人工の産物（artifact）である。人工の産物（artifact）とは、目に見えたり、触れたりすることができるものであり、表面的なレベルで文化が表現されたものである。例えば、企業名、ブランド、ロゴなどがある。

2つ目は、信奉された信条と価値観（espoused belief and values）である。信奉された信条と価値観（espoused belief and values）とは、それらの背景として組織内で共有されている哲学や戦略といった考え方である。

3つ目は、基本的な深いところに保たれている前提認識（assumption）である。基本的な深いところに保たれている前提認識（assumption）とは、明示的に示されているわけではないが、潜在的に当たり前の価値観として存在しているものである。

さらに、Scheinの組織文化の3つのレベルを、表—1に示している。また、Scheinの組織文化の3つのレベルを、「見えやすい」、「見えにくい」に分けて表現するために、「冰山モデル」として表している。それが、図—1である。

本研究では、Scheinの組織文化の3つのレベルをベースにして、「金沢 浅の川園遊会館」が支援する金沢の芸妓を分析する。

まず、人工の産物にあたるものが、磨きぬかれた芸妓の芸と接客である。磨きぬかれた芸妓の芸は、伝統文化の1つである伝統芸能が、観光における文化資源として目に見える形になっている。このため、顧客など、他の人からも見えやすいものとなっている。接客などの顧客への対応も、目に見える観光における文化資源となっている。

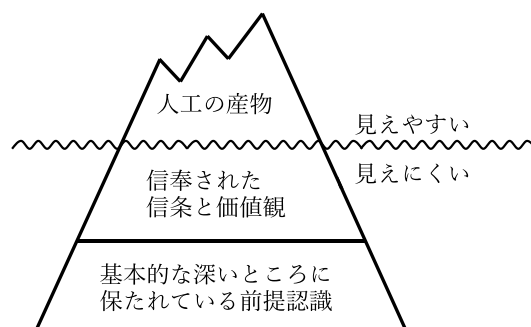
信奉された信条と価値観にあたるものは、観光における文化資源の構築、観光における文化資源の蓄積、接客力である。観光における文化資源の構築は、伝統芸能である芸妓の芸を観光における文化資源として見ることから始まる。その上で、観光における文化資源として見ている芸妓

表—1 Scheinの組織文化の3つのレベル

1. 人工の産物（artifact）
・可視的で、触ることができる構造とプロセス
・観察された行動
——分析、解釈することは難しい
2. 信奉された信条と価値観（espoused belief and values）
・理想像、ゴール、価値観、願望
・イデオロギー（理念）
・合理化（rationalization）
——行動やその他の人工の産物と合致することも、しないこともある
3. 基本的な深いところに保たれている前提認識（assumption）
・意識されずに当然のものとして抱かれている信条や価値観
——行動、認知、思考、感情を律する

出典：Schein, 2010, 邦訳, 2012, 佐藤・Al-alsheikh・平岩, 2014を参考に筆者作成

図—1 Scheinの組織文化の3つのレベル



出典：Schein, 2010, 邦訳, 2012, 佐藤・Al-alsheikh・平岩, 2014を参考に筆者作成

の支援を行うことにより、芸妓が観光における文化資源として構築される。観光における文化資源の蓄積は、日々の芸の訓練及び通常のお座敷以外で芸妓の伝統芸能を披露するイベントを開催することによって、芸妓は（「金沢 浅の川園遊会館」での）芸を披露する実践の機会が増える。芸を披露する実践の機会が増えることで伝統芸能としての芸妓の技にますます磨きがかかり、芸が洗練され、観光における文化資源を蓄積させる。接客力は、（「金沢 浅の川園遊会館」での）接客などを行う実践の機会が増えることで、接客力という観光における文化資源が蓄積、増大される。

基本的な深いところに保たれている前提認識にあたるものは、日本の伝統芸能の継続、地域への貢献意欲である。日本の伝統芸能の継続は、日本の伝統芸能（日本舞踊、三味線など）が好きで、その日本の芸事を続けたいと考える人が、その芸事を仕事にしたいと考えるようになることである。地域への貢献意欲は、この地域の芸妓は、この地域で芸妓をしたいと思っている。このため、芸妓文化があるこの地域の存続に対して意欲的であり、それが、この地域への貢献

意欲につながっている。

ここまでの内容をまとめたものが、表—2である。さらに、本研究では、観光における文化資源を、「見えやすい」、「見えにくい」に分けて表現するために、「氷山モデル」として表している。それが、図—2である。

## VI. 結論と今後の方向性

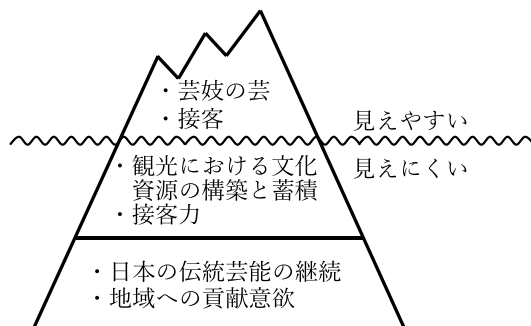
ここでは、結論と今後の方向性について述べる。まず、結論では、石川県の「金沢 浅の川園遊会館」が支援する芸妓のケース・スタディ・リサーチを行い、石川県、金沢の芸妓の観光における文化資源の構築と蓄積について、その要素やメカニズムを明らかにしている。その要素は、組織文化の3つのレベルである、人工の産物、信奉された信条と価値観、基本的な深いところに保たれている前提認識の3つのレベルに分けている。人工の産物には、芸妓の芸、接客がある。信奉された信条と価値観には、観光における文化資源の構築と蓄積、接客力がある。基本的な深いところに

表—2 芸妓の観光における文化資源の3つのレベル

人工の産物	<ul style="list-style-type: none"> <li>磨きぬかれた芸妓の芸：伝統文化の1つである伝統芸能が、観光における文化資源として目に見える形になっている</li> <li>接客：芸妓の接客なども、目に見える観光における文化資源となっている</li> </ul>
信奉された信条と価値観	<ul style="list-style-type: none"> <li>観光における文化資源の構築：伝統芸能である芸妓の芸を観光における文化資源として見る⇒観光における文化資源として見ている芸妓の支援を行う⇒芸妓が観光における文化資源として構築される</li> <li>観光における文化資源の蓄積：日々の芸の訓練及び通常のお座敷以外で芸妓の伝統芸能を披露するイベントを開催する⇒芸妓は（「金沢 浅の川園遊会館」での）芸を披露する実践の機会が増える⇒芸を披露する実践の機会が増えることで伝統芸能としての芸妓の技にますます磨きがかかり、芸が洗練され、観光における文化資源を蓄積させる</li> <li>接客力：（「金沢 浅の川園遊会館」での）接客などを行う実践の機会が増える⇒接客力という観光における文化資源が蓄積、増大される</li> </ul>
基本的な深いところに保たれている前提認識	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本の伝統芸能の継続：日本の伝統芸能（日本舞踊、三味線など）が好き⇒日本の芸事を続けたい⇒仕事にしたい</li> <li>地域への貢献意欲：この地域で芸妓をしたい⇒芸妓文化があるこの地域の存続に対して意欲的⇒この地域への貢献意欲がある</li> </ul>

出典：筆者作成

図—2 芸妓の観光における文化資源の3つのレベルの氷山モデル



出典：筆者作成

保たれている前提認識には、日本の伝統芸能の継続、地域への貢献意欲がある。さらに、そのメカニズムを芸妓の観光における文化資源の3つのレベルの表と、その3つのレベルの氷山モデルの図によって示している。

但し、本研究では、石川県、金沢の芸妓を対象としており、他の文化資源などは対象としていない。このため、今後の方向性としては、他の文化資源などについても、対象としたと考える。

さらに、芸妓の支援を行っている会館の今後の課題として、イベント名称がある。2023年度までの名称は「Meet the Geiko」であったが、2024年度からは「Meet the Geisha」に変更している。これは、外国人には芸妓という表現になじみがなく、芸者という表現の方が認識されているからである。芸妓を、石川県、金沢では、一般的に「芸妓（げいこ）」という表現を用いることが多く、見習いのサービス提供者を別の表現で呼ぶことはほとんどない。しかしながら、石川県以外の場所、例えば、京都府などでは、一人前のサービス提供者を「芸妓」、見習いのサービス提供者を「舞妓」と表現し、「芸妓」と「舞妓」の両方の総称として「芸者」がある。このように、各地での表現に違いがあり、さらに、芸者（Geisha）という表現が一般的によく知られている。このため、この会館で行っているイベントも、芸者という表現を用いることになったが、今後は、金沢における独自性のある資源構築のために、「金沢」、「芸妓」という表現の普及、浸透が重要であると考えられる。

## 引用文献

- クレソン株式会社 (2023). 「外国人 500 人にアンケート調査!外国人が選ぶ人気の日本伝統文化ランキング」『PR TIMES』<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000005.000099781.html> (2024年5月19日参照)
- 遠藤孝夫・中里真由美 (2024). 「地方都市における地域資源を生かした多様なツーリズムに関する基礎的研究：各地の取組み事例と稚内市及び周辺地域における可能性」『育英館大学紀要』1(2), 7-22.
- 権永詞 (2024). 「エコツーリズムを通じた地域の独自性の創出：阿寒摩周国立公園におけるアウトドア・アクティビティの観光資源化の事例から」『千葉商大論叢』61(3), 111-132.
- 石川県中小企業団体中央会 (n. d.). 「石川の伝統工芸」『石川県中小企業団体中央会』<https://www.icnet.or.jp/dentou/> (2024年7月22日参照)
- 金沢 浅の川園遊会館 (n. d.). 「金沢 浅の川園遊会館」『金沢 浅の川園遊会館』<https://kanazawa-asanogawaenyukai.com/> (2024年5月15日参照)
- 金沢芸妓 (n. d.). 「金沢芸妓」『金沢芸妓』<https://kanazawageigi.jp/> (2024年7月8日参照)
- 金沢市 (n. d.). 「伝統文化」『金沢市』<https://www4.city.kanazawa.lg.jp/soshikikarasagasu/kohokochoka/gyomuannai/5/5/9/index.html> (2024年7月22日参照)
- 金沢市・一般財団法人 地方自治研究機構 (2016). 『若年層の定住促進による地方創生に関する調査研究』金沢市・一般財団法人 地方自治研究機構.
- 金沢旅物語 (n. d.). 「【体感!金沢の旅】金沢茶屋文化にふれる 老舗料亭「金城樓」で楽しむ金沢芸妓のお座敷体験」『金沢旅物語』[https://www.kanazawa-kankoukyoukai.or.jp/plan/detail\\_1225.html](https://www.kanazawa-kankoukyoukai.or.jp/plan/detail_1225.html) (2024年5月15日参照)
- 金沢旅物語 (n. d.). 「ひがし茶屋街に行くならまず行くべし!【金沢 浅の川園遊会館】」『金沢旅物語』[https://www.kanazawa-kankoukyoukai.or.jp/article/detail\\_398.html](https://www.kanazawa-kankoukyoukai.or.jp/article/detail_398.html) (2024年5月15日参照)
- 近畿日本ツーリスト (n. d.). 「文化も食も自然美も堪能!石川県のおすすめ観光スポット15選」『近畿日本ツーリスト』<https://www.knt.co.jp/travelguide/kokunai/128/> (2024年7月23日参照)
- 日本交通公社 (n. d.). 「観光資源タイプとは」『日本交通公社』<https://tabi.jtb.or.jp/about/type/> (2024年8月1日参照)
- 日本旅行 (2024). 「全部行ったことある?「日本三名園」借楽園・兼六園・後楽園を紹介します」『Tripa (トリパ)』<https://www.nta.co.jp/media/tripa/articles/c29jE> (2024年7月23日参照)
- 佐々木豊志・石塚ゆかり・関智子 (2024). 「地域観光資源への興味啓発に関する試行：フィールド・ツーリズムコースにおける授業実践」『青森大学附属総合研究所紀要』25(2), 53-60.
- 佐藤トモ子・館山一孝・今泉賢 (2024). 「特異な自然現象の観光資源化プロセスと評価：幻氷・四角い太陽・蟹気楼・雲海の比較考察」『HOSPITALITY:日本ホスピタリティ・マネジメント学会誌』34, 47-58.
- 佐藤善信・Abdulah Al-alsheikh・平岩英治 (2014). 「日本型おもてなしの特徴：茶の湯と懐石料理店発展の関係を中心に」『ビジネス&アカウンティングレビュー』14, pp. 17-37.
- Schein, Edgar H. (2010). *Organizational Culture and Leadership, Fourth Edition*, Jossey-Bass. (梅津祐良・横山哲夫 (訳) (2012). 『組織文化とリーダーシップ』白桃書房)
- 曾我一正 (2024). 「登山道から考える持続可能な観光資源の保護」『中部大学国際人間学研究所シンポジウム：持続可能な社会2023年度』55-60.
- 安本宗春 (2024). 「鉄道遺産の観光資源化：「ブルートレインたらぎ」を事例として」『現代社会研究 (東洋大学)』21, 105-113.
- 頭師暢秀 (2024). 「観光プロモーションに関する小考：聴覚的観光資源に着目して」『近畿大学短大論集』56(1), 77-89.